

Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel: 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

Japan River Restoration Network(日本河川・流域再生ネットワーク；JRRN)が誕生して今月で1年を迎えます。国内での講演会や海外でのPR活動等、徐々にではありますが、活動の幅が広がり出してきた感があります。皆様のご協力の下、引き続き河川

再生に関する情報の循環と人の交流を目指した取り組みを実施してまいりますので、よろしくお願い致します。本ニュースレターでは、ARRN / JRRNの最新の活動内容及び河川再生に関連する情報や取り組みなどをご紹介します。

活動報告(1)

講演会「川からの都市再生～台湾・高雄市 愛河」開催報告

2007年10月11日(木)、JRRNと日本大学理工学部との共催で、講演会「川からの都市再生～台湾・高雄市の事例 愛河(Love River)」が東京で開催され、定員を越す大勢の方々にご参加頂き無事終えることができました。

講演内容：

陳繼志(元・台湾政府経済部副署長)

「愛河再生の取り組み～展望と実践～」

呉宏謀(高雄市政府工務局長)

「高雄市における川を通じた都市文化の再生」

日時：平成19年10月11日(木)10:00～12:00

会場：(財)リバーフロント整備センター



講演会の様子(左：呉 局長、右：陳 前局長)

はじめに、約30年以上に渡り高雄市の水環境改善事業に関してこられた陳繼志氏より、現在の愛河が

再生されるまでの歴史と具体的な事業内容について詳しい説明が行われました。

続いて、高雄市工務局長である呉宏謀氏より、愛河を軸とした高雄市発展の歴史、また市民とともに歩む高雄市の街づくりに関するご講演を頂きました。



愛河における高雄市花火大会（2003）

「川は、都市における揺り籠の様なもの」という講師の言葉を象徴するように、水辺を軸として魅力ある街を発展させていくための数々の教訓が詰まったご講演となり、高雄市による取り組みは、川からの都市再生としてアジアを代表する事例の一つに違いないという確信を持ちました。

今回の交流をきっかけに、JRRN として今後も高雄市関係者と連絡を取りあいながら多くの貴重な情報を交換し、河川再生の生きた情報を蓄積していければと思います。

本講演の為に来日頂きました高雄市工務局の皆様には感謝すると共に、会場にお越し頂いた方々にも御礼を申し上げます。

URL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/314.html>

活動報告(2)

「第3回東南アジア水フォーラム」(マレーシア) 参加報告

2007年10月22日(月)～27日(土)にかけてマレーシア国クアラルンプールを会場に第3回東南アジア水フォーラムが開催されました。本大会は、テーマを「統合水資源管理の推進に向けた具体行動を定めること」とし、東南アジア各国での統合水資源管理の実施状況を把握し知見を共有した上で、12月に大分で開催される「第1回アジア太平洋水サミット(APWS)」に向けた提言を生み出すことが主目的とされています。



開会式の様子(マ国灌漑排水局長)

この中で、10月23日(火)に開催された専門分科会において、現在JRRNが事務局を担っているアジア河川・流域ネットワーク(ARRN)の活動を紹介する機会を得たため、日本の河川環境改善の歩みの紹介と合わせ、講演と意見交換を行ってきました。

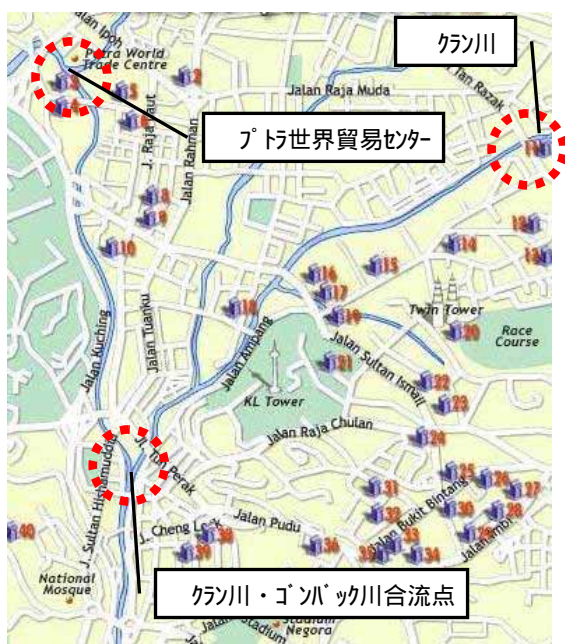
分科会では、今後のアジアにおける河川環境の再生に向けての必要な行動について意見交換が行われ、アジアにおける情報(優れた事例、失敗事例、技術、科学、人材等)の共有の必要性と、そのための仕組み作りが緊急の課題として提言されました。

ARRNに対する期待も会場から述べられ、今後より多くの国々に加盟頂き、ARRN及びJRRNがアジアの河川再生に寄与するためにも、日本国内やアジアの河川再生に関する情報の蓄積を優先して進めてまいりたいと思います。

寄稿記事

マレーシア国クアラルンプールの河川事情

マレーシアの首都クアラルンプールは、マレー語で「泥が合流する場所」を意味し、市中心部にあるモスク「Masjid Jamek」付近でゴンバック川とクラン川が合流していることがその語源となっている。今回、ゴンバック川とクラン川の数力所を訪問する機会を得たので、その河川環境について報告する。



クアラルンプール市街地



合流点直下流部の様子

クアラルンプール市内の河川の様子としては、環境への配慮という点ではまだ発展途上と言え、ゴンバック川の一部で石積みが見られたが、材料的にも周囲の景観にあまり馴染んでいない印象を持った。



プトラ世界貿易センター付近の石積みと釣り人



クアラルンプールの中心地にあたるクラン川とゴンバック川の合流点。遊歩道が整備され親水整備が行われているが、ほとんど人を見かけない。

また、クラン川の多くの区間では、日本橋川と同様に高速道路に覆われ、日本の高度成長期を思い起こさせる光景をあちこちで見かけることができた。



クラン川と高速道路

特徴的なのは、高速道路下の広い河川敷で、どの程度の頻度で冠水するかの情報を得ることが出来なかったが、何らかの有効利用ができないかと感じた。

部分的に、管理用道路と思われるスロープが堤防を越えて河川内へと連結しており、これらを活用した水辺へのアクセス性向上を図ることなどが考えられるが、雨季には毎日発生する東南アジア特有の強い雨量強度の集中豪雨などを考えると、危機管理の面で様々な課題もあることだろう。



広い河川内空間

なお、洪水管理に関連し、ゴンバック川とクラン川が合流点下流部で水位計を発見した。どのような体制で観測しているのかは定かでないが、河川を管理する灌漑排水局により水文観測が行われているようである。



合流点付近の水位計

最後に、クアラルンプール中心部に最近完成した、世界初の洪水防止用自動車トンネル(全長9.7キロ、通称 SMART : Stormwater Management And Road

Tunnel) を簡単に紹介したい。

この SMART トンネルは 2 層構造で、上層は自動車トンネル、下層は排水路として機能し、大洪水時には車道部分も排水路として機能する構造になっている。



SMART トンネルのイメージ図
(下記ホームページより引用)

世界初の構造ということで、クアラルンプール市民もこのプロジェクトを知っているようで、このトンネルを訪問した際のタクシードライバーが、SMART トンネルのお陰で市内の洪水頻度が減った話していたのが印象深い。

なお、本事業の詳細は以下ホームページを参照されたい。<http://www.smarttunnel.com.my>

河川環境の再生と言う点ではこれから本格的に動き出すであろうマレーシア。同じアジア・モンスーン地域にある国として、ARRN を通じた河川再生に関する情報共有を今後益々期待したいと思う。



1998 年完成のペトロナスツインタワー

(記:JRRN 事務局)

会議・イベント等 (2007年11月)

(ARRN・JRRN 主催の会議・イベント)

「第4回 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム ～街づくりと河川の保全・再生」

都市の発展と水辺の再生に着目し、ARRNの加盟国(日本・中国・韓国)に加え、イギリス、タイにおける河川再生プロジェクトについてご講演を頂くこととなりました。皆様のお越しを心からお待ちしております。

日時：平成19年11月30日(金) 13:00 - 17:00

会場：全国都市会館 2F 大ホール

主催：Asian River Restoration Network (財団法人リバーフロント整備センター)

通訳：日英同時通訳

参加費：無料

申込先：以下のホームページをご参照ください。

定員：200名

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/309.html>

(その他の河川再生に関する主なイベント)

第3回 川の日ワークショップ関東大会

日時：平成19年11月10日(土)

会場：東大島文化センター

主催：川の日ワークショップ関東大会実行委員会

<http://arakawa-gakkai.jp/news/20070812-2.html>

We Love Tamagawa いのちをつなぐ138 「多摩川エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム」

日時：平成19年11月17日(土) 10:00～17:30

会場：東京学芸大学 講義棟

主催：東京学芸大学地域と連携した環境学習推進委員会 他

<http://www.fsifee.u-gakugei.ac.jp/GP/pdf/H19/071117shinpo.pdf>

第114回 河川文化を語る会「水と古代文化」

日時：平成19年11月27日(火)

会場：大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)

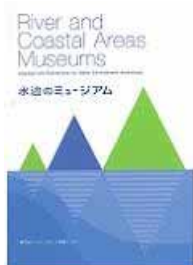
主催：(社)日本河川協会

http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_no114.htm

冊子ビデオ等の紹介

水辺のミュージアム (2007.9)

- ・発行：(財)リバーフロント整備センター
- ・価格：無料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館の中から、特色のあるものを紹介した冊子が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介していますので、川の本質を知る上で参考になります。

多自然型川づくりを越えて (2007.4)

- ・著者：妹尾優二、吉村伸一、吉川勝秀
- ・出版社：学芸出版社 (2007/04)
- ・価格：¥3,360 (税込)



多自然型工法誕生から15年を経て、生態系への理解や現場の技術者の育成など多くの課題が山積しているなかで、実践を踏まえた多自然型川づくりの基本をまとめ、さらに自然と共生し、都市・地域の軸となる「空間としての川づくり」を提案しています。

事務局からのお知らせ

JRRN が設立してまもなく 1 年を迎えます。JRRN として今後も様々な活動を展開していきますので、まだご加入でない方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

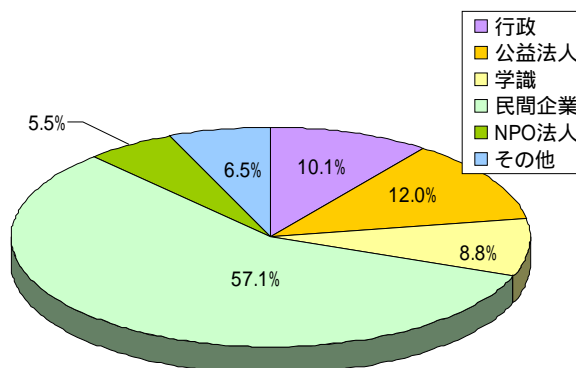
JRRN の登録資格

JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。行政、民間団体、NPO、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) ニュースレターによる国内外の河川再生情報が配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川整備事例の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信可能となります。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2007年10月末時点の会員構成

JRRN 事務局

(財)リバーフロント整備センター (RFC)

問い合わせ先

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部
東京都千代田区一番町8番地 一番町 FS ビル
技術普及部

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>